

平成22年度  
熊本県国民保護共同実動訓練の概要

平成22年9月

内閣官房  
熊本県  
熊本市

## 目 次

1 訓練の概要.....	1
(1)目的 .....	2
(2)実施日時 .....	2
(3)想定 .....	2
(4)主な訓練実施場所 .....	2
(5)主な訓練項目 .....	5
(6)参加機関 .....	6
(7)訓練評価 .....	7
(8)国民保護研修会.....	8
2 訓練の流れ（シナリオ） .....	9
3 主な実動訓練の内容.....	13
(1)災害等対処訓練.....	14
(2)医療救護、負傷者搬送訓練.....	20
(3)避難所運営、救援訓練.....	24
(4)緊急対処事態対策本部等の運営訓練.....	29
<b>参考 1 過去に実施した国民保護共同実動訓練について.....</b>	<b>30</b>
(1)兵庫県国民保護共同実動訓練（平成 21 年度） .....	30
(2)徳島県国民保護共同実動訓練（平成 21 年度） .....	31
(3)長野県国民保護共同実動訓練（平成 20 年度） .....	32
<b>参考 2 国民保護あれこれ.....</b>	<b>33</b>

# 1 訓練の概要

## (1) 目的

国民保護法に基づき、国、地方公共団体、関係機関ならびに地域住民が一体となって共同実動訓練を実施し、国民保護計画の検証・確認等を行う。

緊急処理事態（今回の訓練では爆弾テロ事案）における関係機関相互の機能確認及び連携強化など、国民保護に関する対処能力の向上を図るとともに、国民の保護のための措置に対する国民の理解を促進する。

## (2) 実施日時

平成22年10月2日（土） 午前10時00分から午後1時00分

## (3) 想定

KKウィング（熊本県民総合運動公園陸上競技場）において、国籍不明のテログループによる爆弾テロ事案が発生し、多数の死傷者が発生する。次いで、熊本交通センターで爆発物が発見される。

## (4) 主な訓練実施場所

### ア 熊本県民総合運動公園 （熊本市平山町2776）

- ・ 爆弾テロに伴う救出、救助等
- ・ 負傷者搬送
- ・ 医療救護



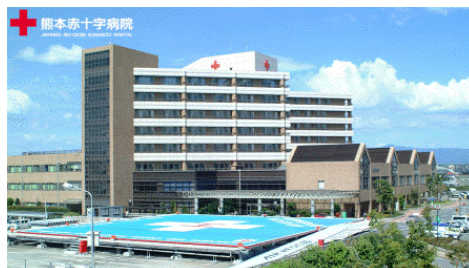
### イ 日本赤十字社熊本県支部 （熊本市長嶺南2-1-1）

- ・ 避難者に対する救援



### ウ 熊本赤十字病院 （熊本市長嶺南2-1-1）

- ・ 負傷者に対する医療救護（救援）



- エ 済生会熊本病院  
(熊本市近見5-3-1)  
・ 負傷者に対する医療救護(救援)



- オ 自衛隊熊本病院  
(熊本市東本町15-1)  
・ 負傷者に対する医療救護(救援)



- カ 熊本城公園  
(熊本市二の丸2)  
・ ヘリコプターによる負傷者搬送



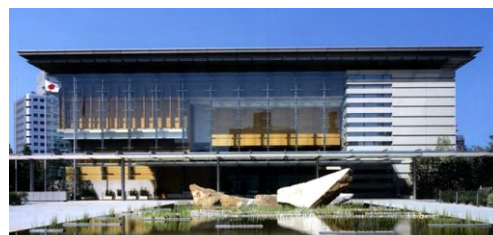
- キ 熊本交通センター(仮想)  
(熊本市桜町3-10)  
・ 爆発物の発見



- ク 熊本県庁  
(熊本市水前寺6-18-1)  
・ 総理大臣官邸とのTV会議  
・ 合同対策協議会開催



- ケ 総理大臣官邸  
・ 熊本県庁とのTV会議



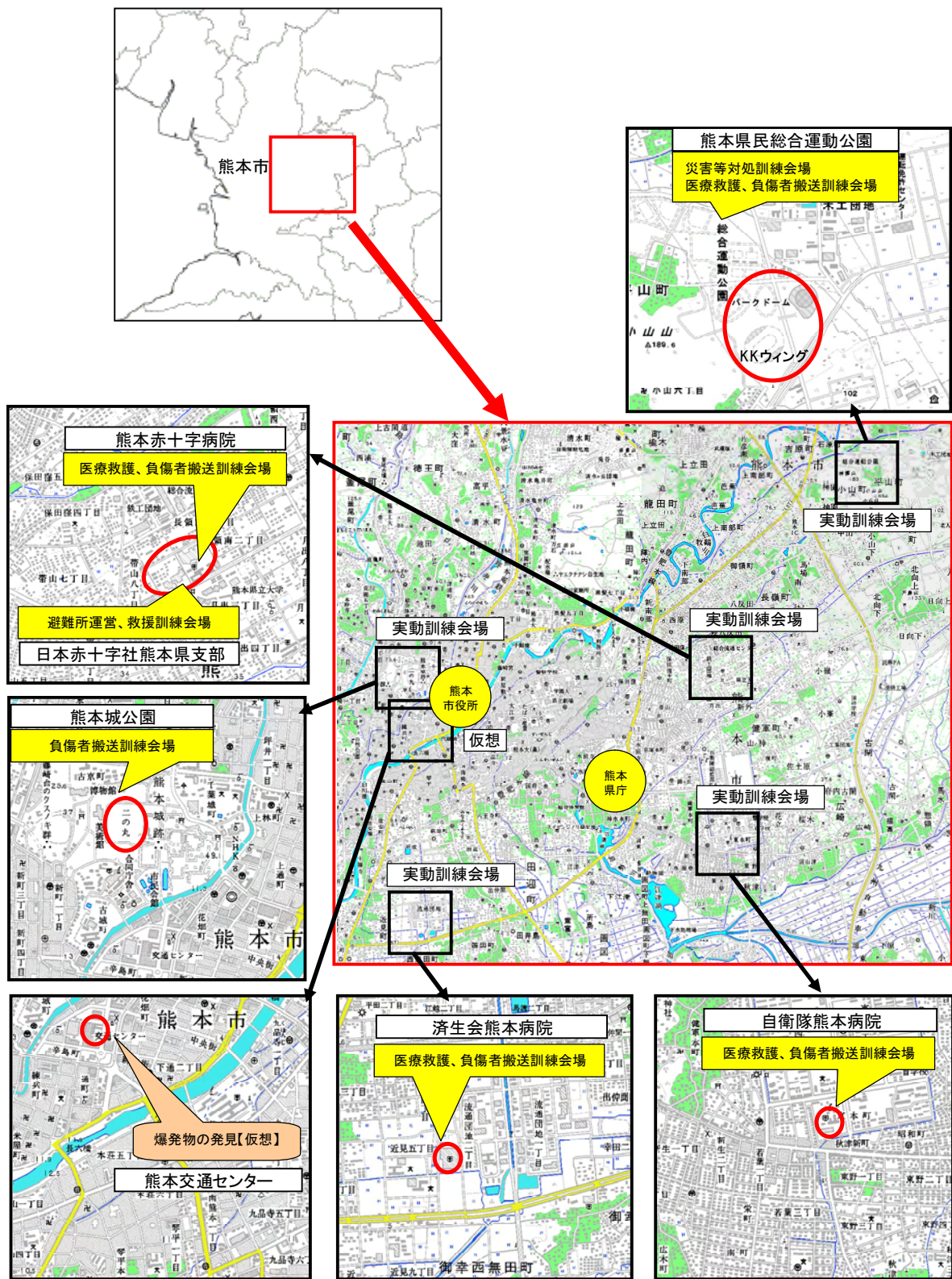


図1 主な訓練実施場所

## (5) 主な訓練項目

### 【災害等対処訓練】

ア KKウィングにおける爆弾テロ対処訓練

イ KKウィングにおける爆発物処理訓練（退避・誘導含む。）

ウ KKウィング周辺における医療従事者搬送訓練

### 【医療救護、負傷者搬送訓練】

エ KKウィング周辺における医療救護訓練

オ 熊本赤十字病院における医療救護訓練、負傷者搬送訓練

カ 済生会熊本病院における医療救護訓練、負傷者搬送訓練

キ 自衛隊熊本病院における医療救護訓練、負傷者搬送訓練

ク 熊本城公園における負傷者搬送訓練

### 【避難所運営、救援訓練】

ケ 日本赤十字社熊本県支部における避難所運営・救援訓練

### 【緊急処理事態対策本部等の運営訓練】

コ TV会議・合同対策協議会運営訓練

サ 情報伝達訓練

## (6) 参加機関

### ア 主催者

内閣官房、熊本県、熊本市

### イ 地方公共団体

福岡県、長崎県

### ウ 指定行政機関

警察庁、消防庁、厚生労働省、国土交通省、海上保安庁、防衛省

### エ 指定地方行政機関等

第十管区海上保安本部、熊本海上保安部

### オ 指定公共機関、指定地方公共機関

日本赤十字社熊本県支部、日本赤十字社福岡県支部、日本赤十字社大分県支部、日本赤十字社鹿児島県支部

### カ 警察関係

熊本県警察、九州管区警察局熊本県情報通信部

### キ 消防関係

熊本市消防局、熊本市消防団、山鹿植木広域行政事務組合消防本部、上益城消防組合消防本部、八代広域行政事務組合消防本部、阿蘇広域行政事務組合消防本部、高遊原南消防組合消防本部、有明広域行政事務組合消防本部、宇城広域連合消防本部、菊池広域連合消防本部、天草広域連合消防本部、北九州市消防局、熊本県防災消防航空隊

### ク 自衛隊関係

陸上自衛隊（西部方面隊、第8師団）、海上自衛隊佐世保地方総監部、航空自衛隊西部航空方面隊、自衛隊熊本地方協力本部、自衛隊熊本病院

### ケ 県内医療機関

熊本大学医学部附属病院、国立病院機構熊本医療センター、熊本市立熊本市民病院、熊本赤十字病院、済生会熊本病院、熊本中央病院、熊本地域医療センター、宇賀岳病院、水俣市立総合医療センター、人吉総合病院、熊本市医師会



コ 県外医療機関

北九州市立八幡病院、久留米大学病院、国立病院機構長崎医療センター

サ 教育機関

熊本大学医学部保健学科、熊本保健科学大学、熊本看護専門学校、熊本駅前看護リハビリテーション学院、九州中央リハビリテーション学院

シ 関係機関

熊本市社会福祉協議会、池田校区自治協議会、月出校区社会福祉協議会、財団法人熊本県スポーツ振興事業団、独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）、独立行政法人国立精神・神経医療研究センター、日本DMORT研究会

(7) 訓練評価

下記体制により、外部有識者による評価を実施する。

<委員長>	国立病院機構九州医療センター	小林良三
<委員>	神戸市消防局警防部	東 洋昭
<委員>	兵庫県企画県民部災害対策局	石塚修司
<委員>	徳島県危機管理部	勝間基彦
<委員>	熊本大学大学院自然科学研究科	北園芳人
<委員>	社団法人玉名法人会 (社団法人隊友会熊本県隊友会)	竹本康美
<委員>	大分三愛メディカルセンター	玉井文洋
<委員>	兵庫県災害医療センター	中山伸一
<委員>	日本医科大学付属病院高度救命救急センター	布施 明

## (8) 国民保護研修会

国民保護について一層の理解を促進するとともに、今回の訓練の円滑な実施及び訓練参加機関相互の認識の共通化など、訓練のより効果的な実施を図ることを目的として、訓練実施前の平成22年9月14日(火)に訓練開催地熊本県で国民保護研修会を開催。



### 平成22年度 国民保護研修会 in 熊本

熊本県では10月2日(土)に国民保護共同実動訓練を実施します。これに先立ちまして、関係者の方々はもとより一般の市民のみならず、テロ等が発生した際の救援活動、医療活動等をご理解頂くために、研修会を開催します。

**9月14日(火) 18:30~20:00 (18:00開場)**

熊本県立劇場 演劇ホール 熊本市大江2-7-1

◇JR「熊本」駅より車で約15分(約4.5km)  
◇JR「熊本」駅より市営バス長嶺団地行「県立劇場前」停留所下車  
◇JR「水前寺」駅(北口)より徒歩で約10分(約800m)  
※有料駐車場 普通車 490台(400円)

**一般公開(事前登録必要)**  
**入場無料**  
[定員1,100名]



**プログラム**

- ◇主催者あいさつ
- ◇基調講演「緊急事態にいかに向かおうか～化学テロから爆弾テロまで～」  
内閣官房NBC災害対策専門官 奥村 徹
- ◇パネルディスカッション  
「テロに対して地域はどう備えるか」

**パネリスト**

					
<b>井 清司</b> 熊本赤十字病院 救急救急センター長	<b>中村 俊隆</b> 熊本日日新聞社 社会部長兼論説委員	<b>山崎 達枝</b> NPO法人 災害看護支援機構理事長	<b>山内 正和</b> 内閣官房内閣審議官	<b>富田 健治</b> 熊本県危機管理室	<b>奥村 徹</b> 内閣官房NBC 災害対策専門官

**コーディネーター**

**お申し込み方法(2010年9月12日必着)** /本チラシの裏面に申し込み用紙となっておりますので、必要事項を記入の上、FAXでお申し込みください。また、インターネットからも申し込むことができますので、本チラシの最下段に記載の「内閣官房 国民保護ポータルサイト」をご確認ください。

※ご入場の際は、事前登録が必要となります。FAXでお申し込みの方は、ご返信いただきました申し込み用紙を当日会場にご持参下さい。

※災害発生時の場合は、お申し込みの順の先着順とさせていただきますので、ご了承くださいませ。

**お申し込みは、「内閣官房 国民保護ポータルサイト」<http://www.kokuminhogo.go.jp/>へ**  
主催：内閣官房 / 熊本県 / 熊本市

## 2 訓練の流れ（シナリオ）

表1 主な訓練シナリオの流れ

時間	事案の概要	政府の主な動き	熊本県、熊本市等の主な動き
10:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ KKウィング観客席で爆弾テロ発生（負傷者約350名）</li> <li>・ KKウィング通路で新たな爆発物発見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 官邸対策室設置、緊急参集チーム招集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 救出・救助活動開始</li> <li>・ 熊本県災害対策本部設置</li> <li>・ 熊本市災害対策本部設置</li> <li>・ 自衛隊、DMAT（災害派遣医療チーム）派遣要請</li> </ul>
10:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ KKウィングで発見された不審物（爆発物）の処理完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政府派遣要員が熊本県庁に向けて出発</li> </ul>	
11:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本赤十字社熊本県支部での避難者（非負傷者）受入開始</li> <li>・ 熊本交通センター内で爆発物らしき不審物を発見</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 負傷者を医療機関（熊本赤十字病院、済生会熊本病院、自衛隊熊本病院）に搬送し、医療救護開始</li> </ul>
11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熊本交通センターで発見された不審物を爆発物と確定</li> </ul>		
12:00		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急対処事態認定、警報発令、避難措置の指示、救援の指示</li> <li>・ 国民保護等派遣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熊本県緊急対処事態対策本部設置</li> <li>・ 熊本市緊急対処事態対策本部設置</li> <li>・ 避難措置の指示、救援の指示を受け、住民に避難を指示</li> <li>・ 住民の避難開始</li> </ul>
12:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熊本交通センターの爆発物処理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政府派遣要員が熊本県庁に到着</li> <li>・ 熊本県庁とのTV会議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総理大臣官邸とのTV会議</li> <li>・ 合同対策協議会</li> </ul>
13:00			

※青字は仮想（実動での訓練は実施しません）



図2 訓練スケジュール



### **3 主な実動訓練の内容**

(1) 災害等対処訓練

ア 場所

熊本県民総合運動公園（KKウイング周辺）

イ 時間

10:00～11:30

ウ 概要

【爆弾テロ初動対処訓練】

爆弾テロ発生直後における、施設管理者及び実動機関等の対処訓練を実施する。

【救出・救助訓練】

現場において負傷者の救出・救助の訓練を実施する。

【現地調整所運営訓練】

現地調整所を設置し、活動調整や情報共有等の訓練を実施する。

【医療・救護訓練】

爆発による負傷者に対する医療救護訓練を実施する。

ヘリコプターによる医療従事者の投入訓練を実施する。

KKウイングから救助された負傷者の救急車とヘリコプターによる搬送訓練を実施する。

【爆発物処理訓練】

テログループの設置した新たな不審物（爆発物）の発見に伴い、現場において避難誘導および爆発物処理等の訓練を実施する。



表2 災害等対処訓練の流れ

時刻	訓練シナリオ
10:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ KKウイング観客席で爆弾テロ発生（負傷者約350名）</li> <li>・ 施設管理者が初動対応（市消防局、県警への通報、被災者の避難誘導等開始）</li> <li>・ 市消防局、県警が現場に到着（情報収集、NBC 検知など現場確認後、救出、救助、負傷者のトリアージ開始）</li> <li>・ 県、市の連絡員到着（現地調整所開設）</li> <li>・ 自衛隊医官（ヘリ）、熊本赤十字病院医療チーム到着（医療救護所開設）</li> <li>・ 陸上自衛隊部隊到着（救出、救助、医療救護支援開始）</li> <li>・ 県内消防応援隊到着（救出、救助、医療救護支援開始）</li> <li>・ KK ウィング通路で新たな爆発物発見（県警による処理開始）</li> <li>・ 福岡県ドクターヘリ到着（久留米大学病院医療チームの現場投入と負傷者搬送）</li> </ul>
10:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内の DMAT、福岡、大分の日赤医療救護班到着（医療救護支援開始）</li> <li>・ 長崎県ドクターヘリ到着（国立病院機構長崎医療センター医療チームの現場投入と負傷者搬送）</li> <li>・ 県防災消防ヘリ到着（負傷者搬送）</li> <li>・ 非負傷者の避難所（日本赤十字社熊本県支部）への避難開始。</li> <li>・ 爆発物処理完了</li> <li>・ 救出・救助完了</li> <li>・ 負傷者の搬送完了</li> </ul>
11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訓練終了</li> </ul>

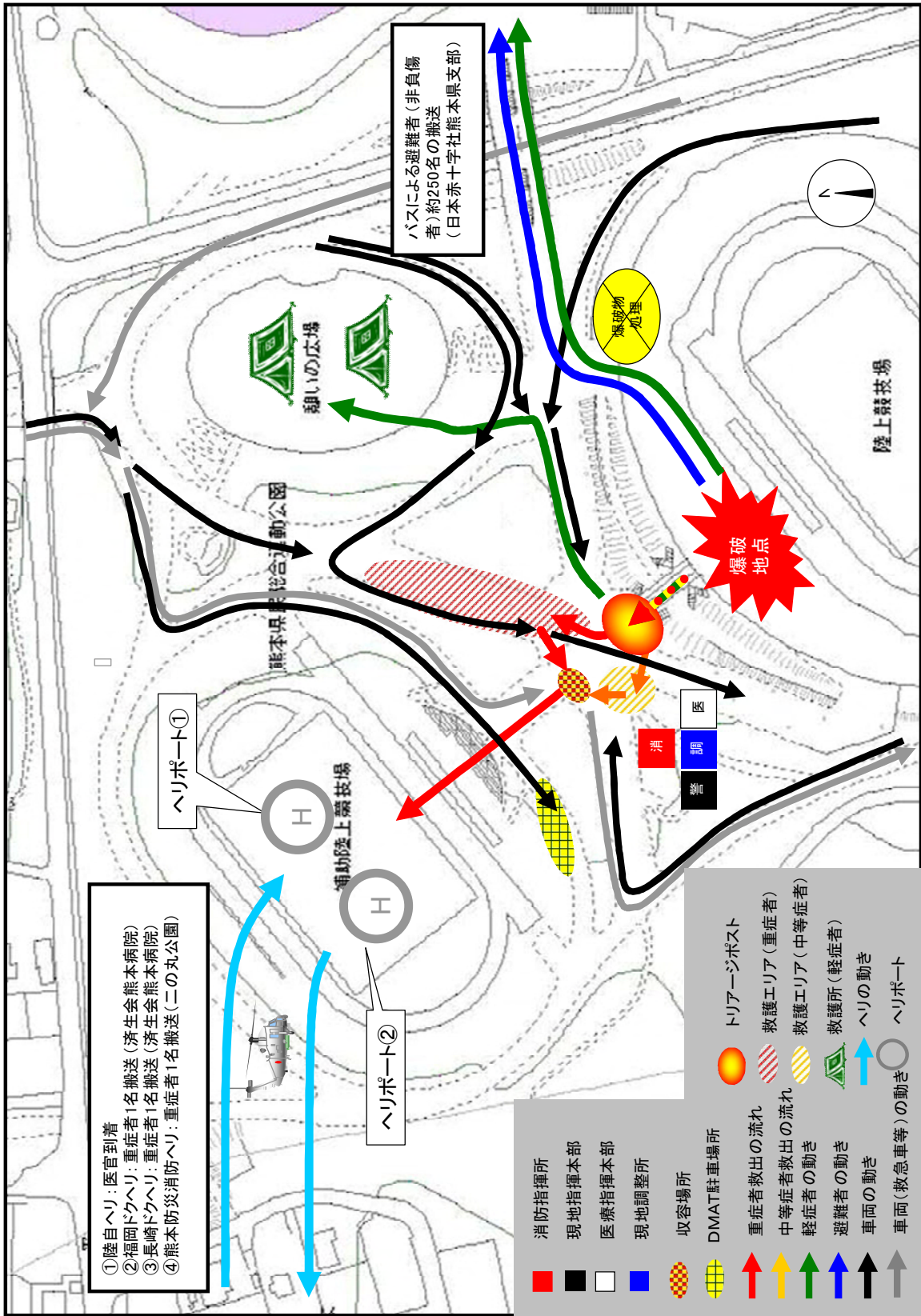


図3 KKウィング周辺活動図

「緊急処理事態」については、大規模なテロなどが主として想定されており、これまでの国民保護訓練においても日本国内で大規模テロが発生した場合の対処について、訓練を積み重ねてきたところです。

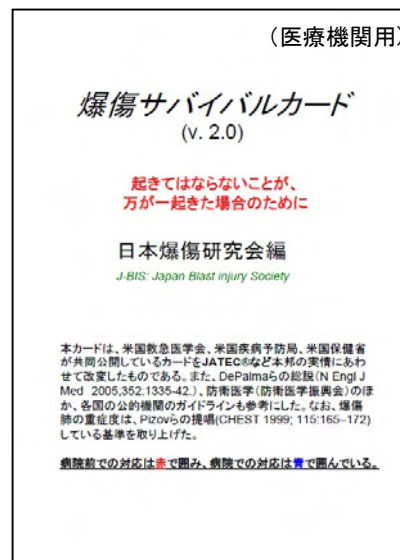
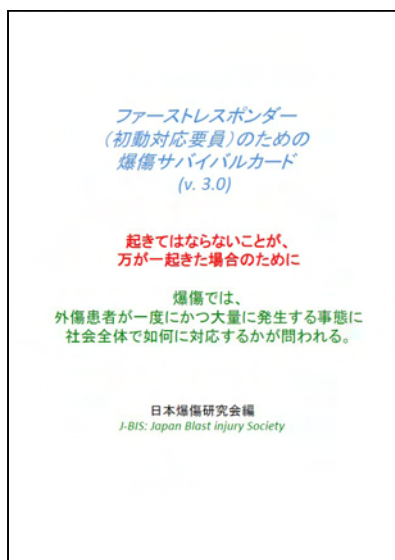
この大規模テロに関していうと、我が国においては、いわゆる松本サリン事件及び地下鉄サリン事件が実際に起こったということもあり、国民保護訓練についても、化学剤を想定したシナリオが採用されることが多く、実際、昨年度に実施された兵庫県訓練及び徳島県訓練並びに一昨年度に実施された長野県訓練もやはり化学テロを想定した訓練でした。

一方、近年、実際に世界中で起こっているテロの特徴を見てみると、爆弾は化学剤や生物剤、放射性物質に比べて製造・入手が比較的容易であるということもあり、起こっている事案は圧倒的に爆弾によるテロが多くなっています。我が国では、1974年の三菱重工爆破事件以来、大規模な爆弾テロは起こっていませんが、世界では、2002年・2005年のバリ島爆弾テロ事件、2004年のスペイン列車爆破事件、2005年のロンドン同時爆破事件など、非常に多くの爆弾テロが起こっています。このような世界的なテロの潮流・動向を踏まえ、原点に帰るという意味も込めて、本訓練のシナリオとしては、「爆弾テロ」を採用することとしました。

爆弾の爆発による身体的な損傷を「爆傷」(爆発損傷)といいますが、我が国における、医学面での爆傷への対応については、他の先進諸国と比較して、必ずしも進んでいるわけではないという面もあり、爆傷に対する実動機関と医療機関の対応のあり方の検討が、近年進められてきているところです。

その検討の一つが、我が国の救急医・外傷外科医などの有志によって組織された「日本爆傷研究会」によるものであり、この研究会における検討成果として、「爆傷サバイバルカード(初動対応要員用)」、「爆傷サバイバルカード(医療機関用)」、「爆傷初期診療録」が、本年6月の日本臨床救急医学会において発表されました。今回の熊本訓練は、これらのサバイバルカードや爆傷初期診療録の中で整理された基礎的知識を踏まえた訓練内容となっています。

爆傷については、爆弾テロによるものだけでなく、工場火災などの大規模事故の場合においても同様の負傷者に対応することもあり得るところであり、負傷者への対応を行う各機関においては、本訓練を機に爆傷に対する対応にも習熟され、万一の場合への対応に備えられることが期待されます。



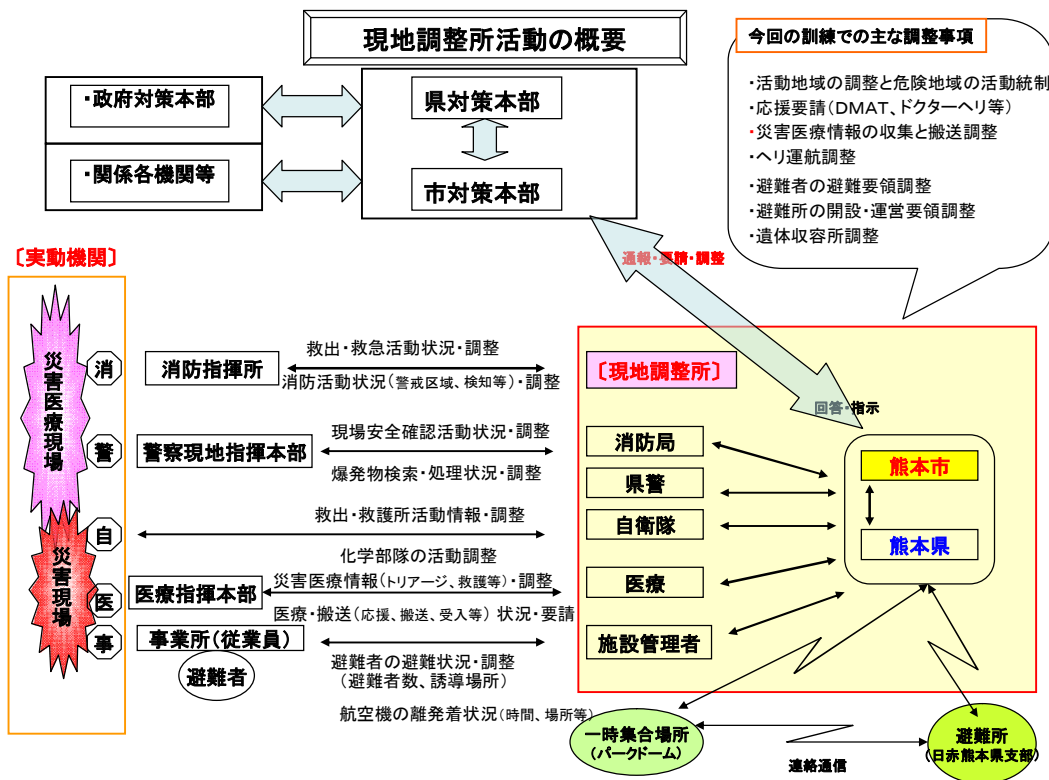
「現地調整所」とは

政府が緊急対処事態と認めるような大規模なテロ現場などでは、二次的攻撃への警戒、負傷者の救護及び避難誘導などを警察、消防、自衛隊、海保及び医療などの各機関が対応していくこととなります。このような現場で効果的かつ安全な活動を確保するには、全般的な方針を共有しつつ、各機関が横断的に連携していくことが不可欠です。

「現地調整所」は、県・市からの派遣職員により設置され、県や市の対策本部との確実な連絡調整とともに、各機関の横断的連携が円滑に行われるよう、各々が情報を持ち寄り、全般の状況と方針を共有しながら、各機関が整合のとれた活動を行うための重要な場となります。

今回の訓練での「現地調整所」

KK ウィング周辺での各機関の活動調整を下図「現地調整所活動の概要」により実施します。



【参考】訓練イメージ（これまでの訓練記録写真による）



各部隊の到着 (H21 兵庫)



負傷者の救出・救護 (H21 兵庫)



現地調整所での活動 (H21 徳島)



負傷者の搬送 (H21 徳島)



ヘリによる負傷者の搬送 (H21 徳島)



爆発物の処理 (H21 兵庫)

## (2) 医療救護、負傷者搬送訓練

### ア 場所

KKウィング周辺、熊本赤十字病院、済生会熊本病院、自衛隊熊本病院

### イ 時間

10:40～12:00

### ウ 概要

#### 【熊本赤十字病院における医療救護訓練】

KKウィング周辺から搬送された負傷者に対する医療救護およびヘリコプターによる県外への搬送訓練を実施する。

#### 【済生会熊本病院における医療救護訓練】

KKウィング周辺から搬送された負傷者に対する医療救護訓練を実施する。

#### 【自衛隊熊本病院における医療救護訓練】

KKウィング周辺から搬送された負傷者に対する医療救護訓練を実施する。

表3 医療救護、負傷者搬送訓練の流れ

時間	訓練シナリオ
10:40	・ 済生会熊本病院へ重症者1名収容（福岡県ドクターヘリ）
10:50	・ 済生会熊本病院へ重症者1名収容（長崎県ドクターヘリ）
11:00	・ 熊本赤十字病院、済生会熊本病院、自衛隊熊本病院において車両搬送による重症者、中等症者、徒歩移動による軽症者の収容開始 ・ 鹿児島日赤救護班が熊本赤十字病院ヘリポートに到着（第十管区海上保安本部ヘリ）
11:15	・ 北九州市消防局ヘリが熊本赤十字病院ヘリポートに到着 ・ KKウィング負傷者搬送完了 ・ 小児重症者1名搬送のため熊本赤十字病院ヘリポート離陸（北九州市消防局ヘリ）
11:40	・ 熊本赤十字病院、済生会熊本病院、自衛隊熊本病院において車両搬送による重症者、中等症者、徒歩による軽症者の収容完了
12:00	・ 医療救護、負傷者搬送訓練終了

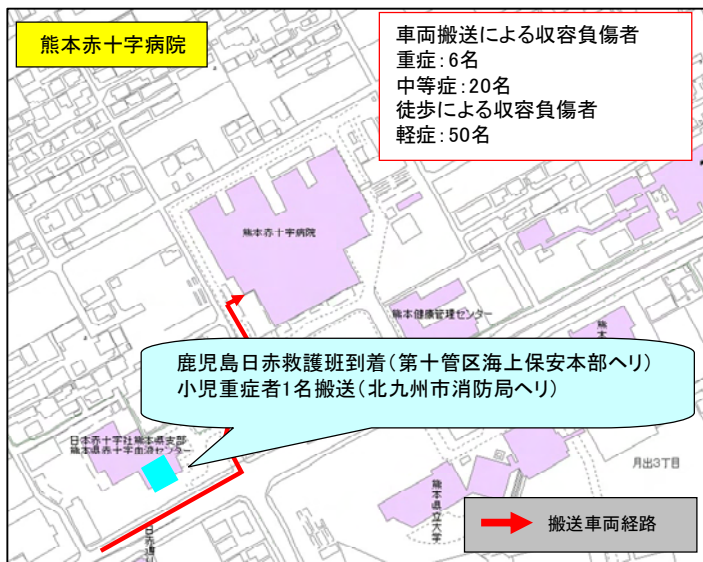


図4 各医療機関活動図

COLUMN : 県外からのヘリコプターを使った広域応援（医療）

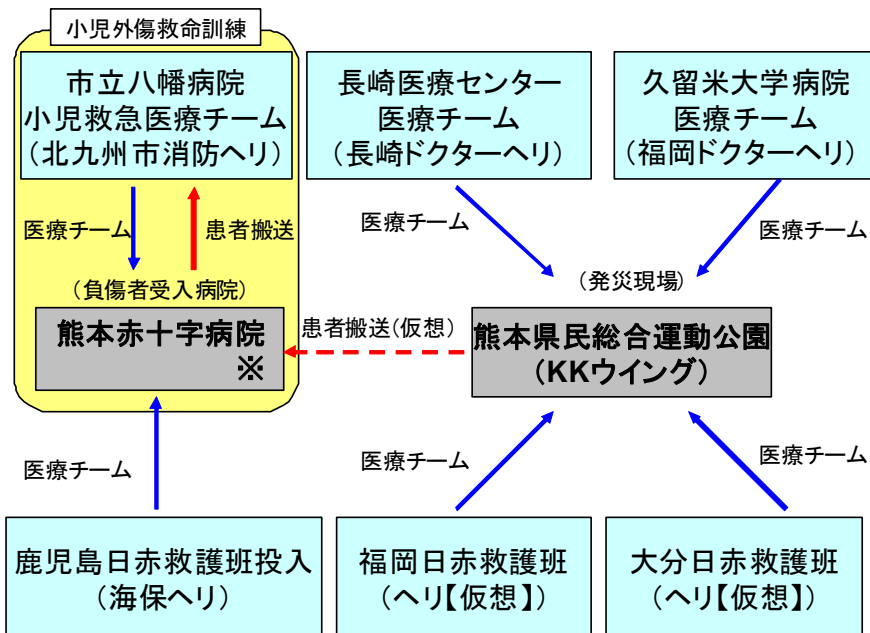
政府が緊急対応事態と認める大規模なテロが発生した場合、発災現場や病院では、多数の被災者で溢れかえることが想定され、テロが発災した地域だけでは対応することは困難になります。このような場合、地域外、特に県外との連携が重要です。

今回の熊本県国民保護共同訓練においては、県外の福岡県、長崎県、大分県、鹿児島県からドクターヘリや海上保安庁、消防等実動機関のヘリコプター等により医療従事者が発災現場や周辺の負傷者受入病院に到着し、医療救護に参加します。

また、小児の被災者につきましては、消防ヘリで小児救急医の現地医療機関への支援派遣および県外の小児外傷治療を得意とする救命救急センターへの小児搬送を行います。今まで、小児外傷救命に着目した災害訓練は、本邦ではほとんど行われたことがなく、次世代を支える小児を確実に救命しようと言う強い決意の表れです。

このように、ヘリコプター搬送については、天候・気象に左右されるものの機動性、迅速性に優れており、県外からの医療従事者の輸送、県外への被災者の搬送には重要な手段の一つとなります。

今回の訓練に限らず、日頃から県外の医療機関や搬送手段を持つ実動機関と、万が一の場合に備えて、手順を確認しておくことが重要です。



※この他、済生会熊本病院、自衛隊熊本病院では、負傷者受入訓練のみをおこなうこととする。



【参考】訓練イメージ（これまでの訓練記録写真による）



搬送された負傷者の受入 (H21 兵庫)



来院した負傷者の受入 (H21 徳島)



軽症者への医療活動 (H21 徳島)



重症者への医療活動 (H21 兵庫)



対策本部の活動状況 (H21 徳島)



ヘリによる航空搬送 (H21 兵庫)

### (3) 避難所運営、救援訓練

#### ア 場所

日本赤十字社熊本県支部

#### イ 時間

11:00～12:30

#### ウ 概要

##### 【避難所運営・救援訓練】

KKウイングからの避難者に対し、安否情報収集・整理、健康相談・メンタルヘルスへの配慮を盛り込んだ訓練等を実施する。

##### 【給食訓練】

避難所において、避難者に対する炊き出し訓練を実施する。

##### 【遺族支援訓練】

遺族支援訓練を実施する。

表4 避難所運営、救援訓練の流れ

時間	訓練シナリオ
10:00	・ KKウイングから避難開始 ・ 熊本県および熊本市職員が日本赤十字社熊本県支部に到着 ・ 健康相談要員到着 ・ 避難所設置
11:00	・ 避難者（非負傷者）が搬送バスで到着 ・ 安否情報収集・整理、健康相談・メンタルヘルスへの配慮訓練（チラシの配布等）開始 ・ 炊き出しによる給食開始
12:30	・ 遺族支援訓練開始 ・ 避難所運営・救援訓練終了

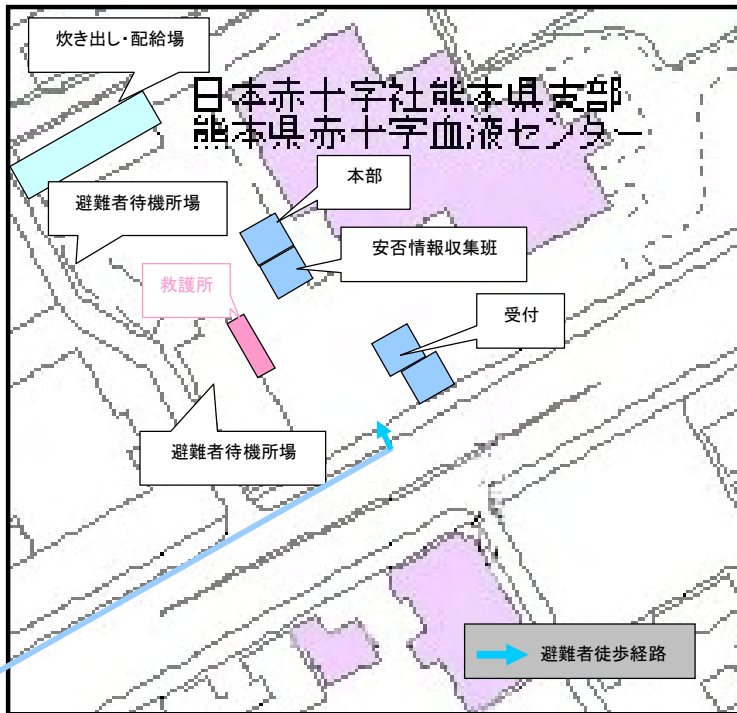
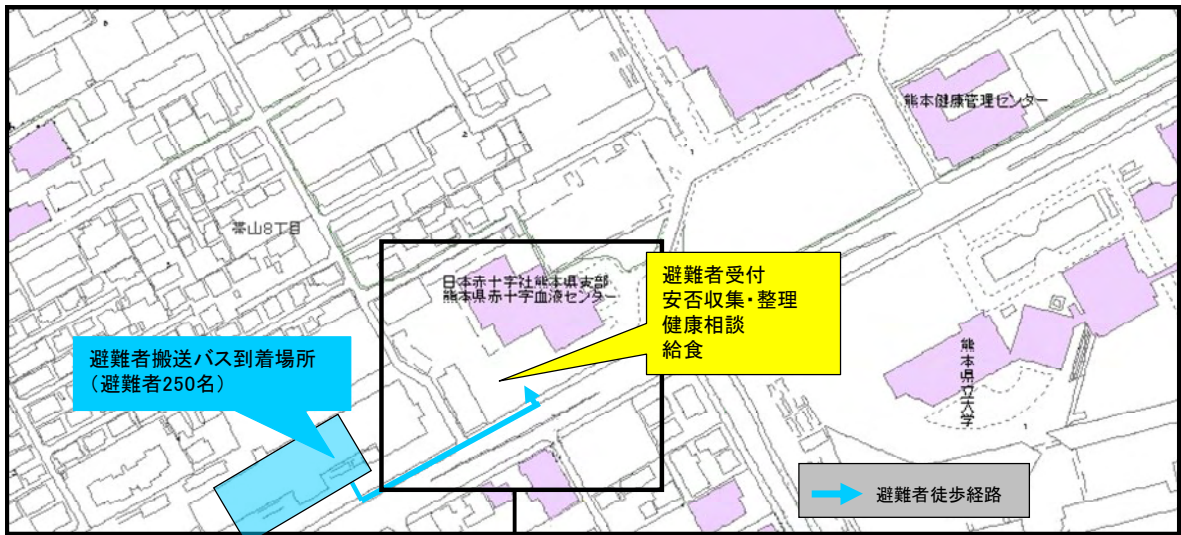


図5 避難所運営、救援訓練活動図

大規模な自然災害や事件・事故が起こった場合、被災者・被害者の身体面での治療行為が必要であることはもちろんですが、近年は、それに加えて、精神面でのフォローの必要性がいられています。

大規模災害が起こると、家族や親しい知人、家財を失うことや、あるいは災害後の生活環境の大きな変化や将来の生活への漠然とした不安が、精神的に大きなストレスとなります。これが原因で、気持ちや体のバランスを崩すことがあります。その多くは一時的なもので、自然に回復します。

しかし、ストレスが長引いたりする場合には、うつ病、パニック発作、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの精神疾患を引き起こすこともあります。災害が起きた直後の被災者・被害者への精神面のフォローとして、これから起こりうる症状とその回復の見通しについて、十分にお知らせすることが重要です。特に、テロの場合には、事件後に被災者が分散してしまい、後からフォローに入るとは難しいこともあり、発災直後に、避難所などの現場で情報を流すことが重要と考えられています。

今回の訓練においては、専門家の知見を得て、このようなお知らせを行うためのチラシを作成し、避難所に避難した方に配布することを予定しています。(下図参照。図はイメージ。)

今回作成したチラシは一つの試みとして、国民保護訓練で活用しましたが、大規模テロ事案に限らず、今後、万一、大規模な自然災害などが発生した際にも、今回の訓練での取組みを参考に、各自自治体・各実働機関において、身体的な救出救護だけでなく、被災者のメンタルヘルスにも十分に配慮した取組みが行われることが期待されることです。



(H21 兵庫県訓練の様子)

訓練

## 災害にあわれた皆様へ

- 災害は誰にとっても大きなストレスです。気持ちや体のバランスをくずすことがあります。多くの場合は自然に回復します。心配なことがあっても、ゆっくりと息をしながら、しっかりと行動しましょう。周囲の人と声を掛け合うことも大切です。
- 次のようなことは、普通に見られます。
  - ・眠れない、食欲がない、胃腸の調子が悪い
  - ・ドキドキ、そわそわ、はらはら、する
  - ・疲れやすい、気持ちが落ち込む、やる気が出ない
  - ・涙もろかったり、怒りっぽくなる
  - ・考えや言葉が出てこない、ぼんやりする など
- 心身の不調をやわらげようとして、カフェイン(コーヒー、紅茶、緑茶など)や、お酒、タバコを増やす人がいます。これらは不安や不眠を悪化させることがあるので、注意が必要です。
- もっと詳しく聞きたいときや、良くならないとき、仕事や家事に影響が出たときには、お気軽にお電話ください。ご家族についての相談でも結構です。

### お問合せ窓口

- ・熊本県健康相談ホットライン 096-0000-0000
- ・熊本市健康相談ホットライン 096-0000-0000

熊本県・熊本市

※このチラシは、超急性期におけるメンタルケアの一環として、被災者に対する心理教育を行うためのものです。

## COLUMN： 大規模テロの被災者のご遺族に対する支援（グリーフケア）

大規模災害でご家族や親しい知人が犠牲になった場合、残された方の悲しみは非常に強いものになります。そのため、長い年月にわたり心身の不調を訴える場合もあります。

しかし、従来の災害医療においては人命救助が第一義とされ、「亡くなった方や遺族のことを考える」という視点が抜け落ちていた点があったのは否めません。

アメリカでは災害直後からDMORT(Disaster Mortuary Operational Response Team;災害時遺族・遺体対応派遣チーム)と呼ばれるボランティア・チームが災害現場や遺体安置所に急行し、遺体の識別や修復、遺族への連絡とグリーフケアを行っています。

日本でも同様のシステムを構築する目的で、平成18年10月に救急医・監察医・心療内科医などの有志からなる日本DMORT研究会(代表:兵庫医科大学教授 吉永和正)が発足し、早期からの遺族への危機介入などを検討し、「災害急性期からのグリーフケア」を目指して活動中です。

また、警察では、犯罪被害者(その家族又は遺族を含む。)の方に対する様々な支援を行っており、熊本県警察本部においても、犯罪被害者支援室を設置し、これら被害者等の視点に立った取組みを実践しています。

さらに、日本赤十字社においても、大規模な災害の被災者が受けるこころのダメージをケアするため、「こころのケア」職員を育成し、実際に大規模災害が起こった際には現地にこのような職員を派遣するなどの取組みが行われています。

国民保護訓練においても、昨年度の兵庫県訓練において、遺族の方のグリーフケアへの取組みを初めて訓練の中に組み入れました。

この訓練の実施に当たっては、実際にJR福知山線脱線事故で亡くなられた方のご遺族のケアに当たっておられる医師などのアドバイスをいただきながら、兵庫県警察本部犯罪被害者支援室、日本DMORT研究会、内閣官房が訓練企画段階から調整を行い、訓練当日には、たくさんの方のご視察をいただいたところです。

今回の訓練では、引き続き、被災者のご遺族のグリーフ(悲嘆)を和らげるため、熊本県警察本部犯罪被害者支援室と、熊本赤十字病院の臨床医・看護師の方々が共同して、具体的なケア活動を実践することとしています。

大規模災害が起きた場合のご遺族の悲しみを和らげるための支援について、今回の訓練での成果などを活用して、引き続き研究・取組みが進められることが期待されます。



(H21 兵庫県訓練の様子)

【参考】訓練イメージ（これまでの訓練記録写真による）



要援護者への避難支援 (H21 徳島)



避難所での安否情報収集 (H21 徳島)



避難所における問診 (H21 兵庫)



ヘリによる緊急物資の輸送 (H21 徳島)



避難所での炊き出し (H21 徳島)



避難所での炊き出し (H21 徳島)

(4) 緊急処理事態対策本部等の運営訓練

ア 場所

熊本県庁

イ 時間

12:45～13:00

ウ 概要

【TV会議・合同対策協議会運営訓練（熊本県庁）】

政府、熊本県、熊本市および関係機関による合同対策協議会を開催する。

- ・ 政府緊急処理事態対策本部とのTV会議の実施。
- ・ 事態の状況に関する情報共有および緊急対処保護措置に関する協議等の実施。

【情報伝達訓練】

総理大臣官邸から熊本県、熊本市への情報伝達訓練を実施する。

【参考】訓練イメージ（これまでの訓練記録写真による）



官邸とのTV会議 (H21 兵庫)



合同対策協議会の状況 (H21 徳島)

## 参考1 過去に実施した国民保護共同実動訓練について

### (1) 兵庫県国民保護共同実動訓練（平成21年度）

#### ア 主催者

内閣官房、兵庫県、神戸市

#### イ 実施年月日

平成21年11月30日（月） 9:30～13:00

#### ウ 訓練想定

人と防災未来センター（防災未来館）において、国籍不明のテログループによる化学剤散布事案が発生し、多数の死傷者が発生する。次いで、人と防災未来センター内（ひと未来館）で爆発物が発見される。さらに、ホームズスタジアム神戸で爆発物（サリンと思われる液体入り）らしきものが発見される。当該テログループの一部はHAT神戸南側海上を小型ボートで逃走する。



化学剤散布現場での救助



除染前医療の試行



病院前除染の実施



現地調整所の運営



爆発物発見現場からの避難



テログループの捕捉



## (2) 徳島県国民保護共同実動訓練（平成 21 年度）

### ア 主催者

内閣官房、徳島県、鳴門市

### イ 実施年月日

平成 22 年 2 月 6 日（土） 9:00～17:00

### ウ 訓練想定

鳴門・大塚スポーツパーク（徳島県鳴門総合運動公園）内において、国籍不明のテログループによる化学剤（サリン）爆発散布事案が発生し、多数の死傷者が発生する。

さらに、テログループは鳴門市立図書館に人質をとって立てこもり、保有する大量のサリンを散布すると犯行を予告する。



化学剤の検体採取



除染前医療の試行



現地医療指揮本部の活動



ヘリによる負傷者の搬送



警察の誘導による住民避難



避難所での炊き出し

### (3) 長野県国民保護共同実動訓練（平成 20 年度）

#### ア 主催者

内閣官房、長野県、長野市

#### イ 実施年月日

平成 20 年 11 月 26 日（水） 9:00～13:00

#### ウ 訓練想定

長野市で開催される国際スケート大会の会場において、国籍不明のテログループによる化学剤散布事案が発生し、多数の死傷者が発生する。

また、当該グループが逃走の後、化学剤を所持して長野駅構内に立てこもる。



化学剤散布現場での救助



現地調整所での連携



病院でのトリアージ



テログループの鎮圧



避難者に対する健康調査



県庁と官邸の TV 会議

## 参考2 国民保護あれこれ

## 国民保護法とは

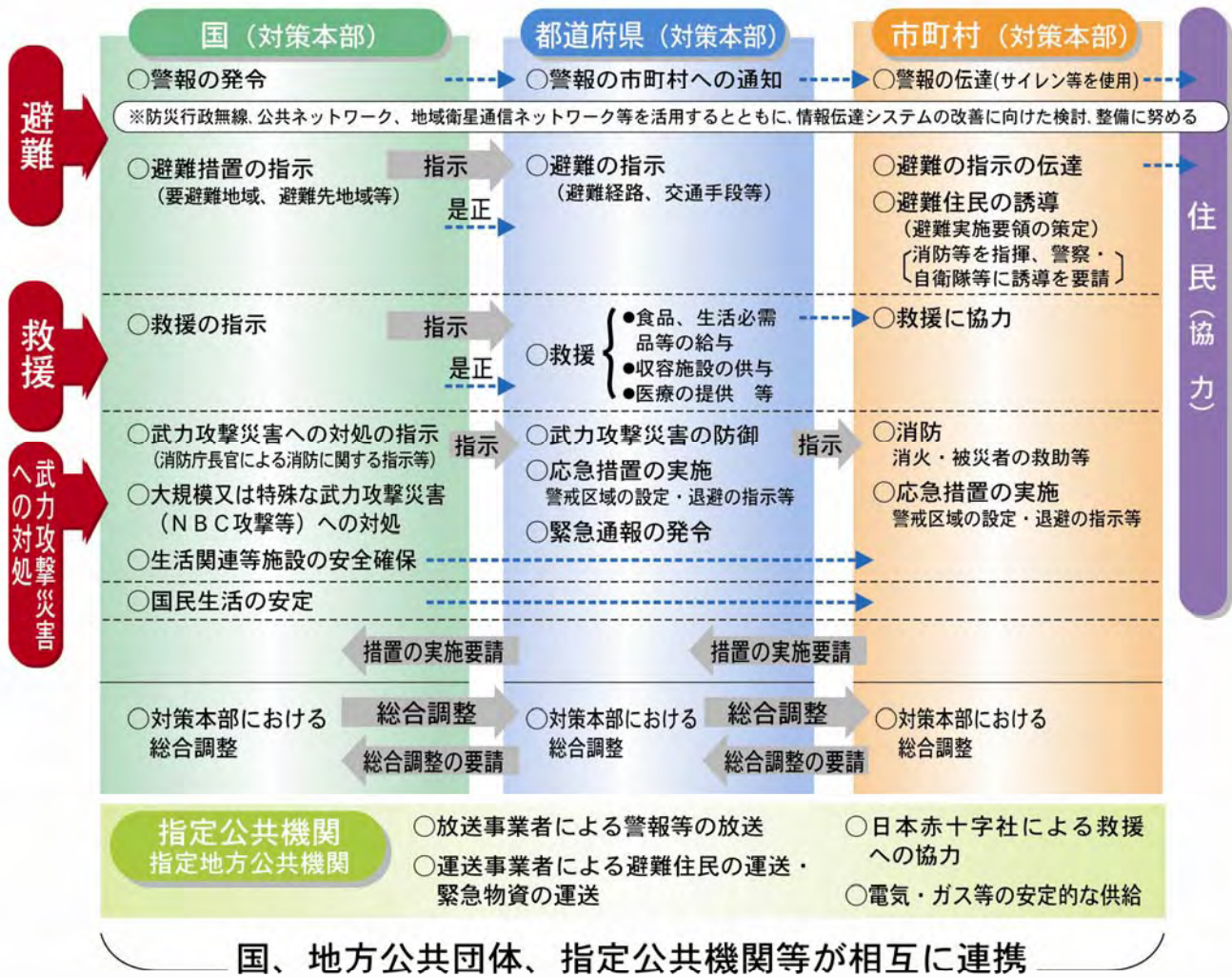
我が国を取り巻く安全保障環境については、冷戦終結後10年以上が経過し、我が国に対する本格的な侵略事態が発生する危険性は低下しているものの、大量破壊兵器や弾道ミサイルの拡散、国際テロ組織等の活動を含む新たな脅威や平和と安全に影響を与える多様な事態への対応が差し迫った課題となっています。

こうした状況も踏まえ、平成16年9月、我が国に対する外部からの武力攻撃などにおいて、国民の生命、身体及び財産を保護することなどを目的とした国民保護法(武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律)が施行されました。

国民保護法においては、国は、武力攻撃やテロなどから国民の生命、身体又は財産を保護するため緊急の必要があるときは、警報を発令して、みなさんに危険な状態になったことをお知らせすることとなっています。そして、国をはじめ、都道府県、市町村などの関係機関が、国民の保護のために情報の提供や避難の誘導、避難所の開設、救援物資の配布、救助活動、医療活動などの措置に迅速かつ全力を挙げて対応することとしています。

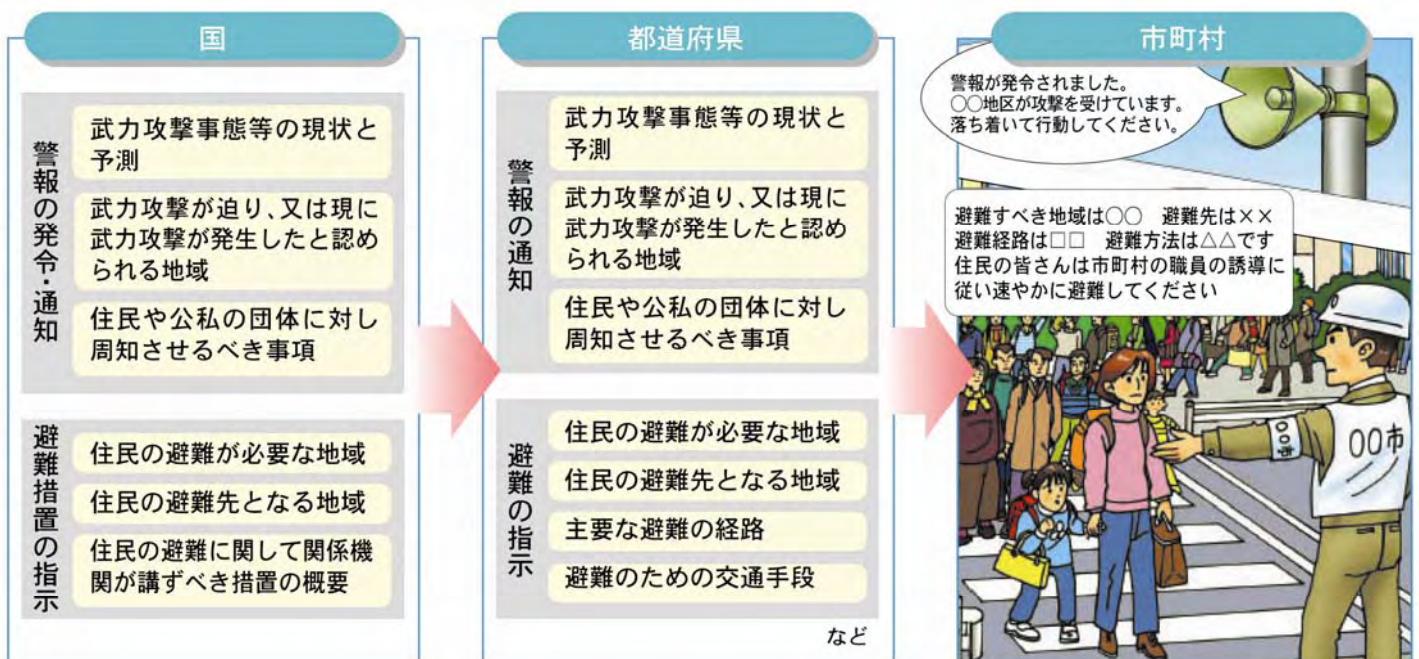
# 武力攻撃事態等における国民の保護のための仕組み

国民の保護のための措置は大きく、避難、救援、武力攻撃災害への対処の3つから構成されます。



## 避難の仕組み

- 国は、武力攻撃から国民の生命、身体又は財産を保護するため緊急の必要があると認めるときは、警報を発令して、直ちに都道府県知事に通知します。さらに、住民の避難が必要なときは都道府県知事に対して、住民の避難措置を講ずるよう指示します。
- これを受け、都道府県知事は、警報の通知や避難の指示を行います。そして、放送や市町村の防災行政無線を通じて、皆さんに情報が伝達されます。



## 救援の仕組み

- 救援活動は、都道府県知事が中心となって、市町村や日本赤十字社と力を合わせて実施します。

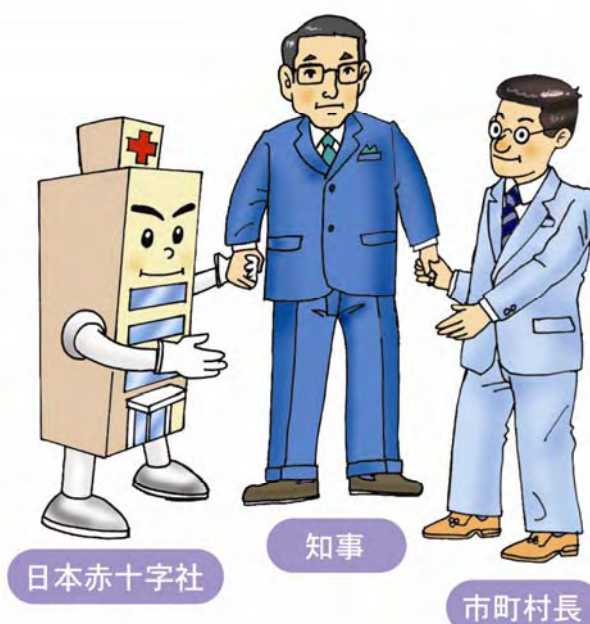
### 避難場所や医療の提供

避難してきた人々に宿泊場所や食品、医薬品などを提供



### 安否情報の収集や提供

行方不明になったり家族と離ればなれになった人たちのために安否情報の収集や提供を行う



## 武力攻撃災害への対処

- 武力攻撃に伴う被害をできるだけ小さくするために、国と地方公共団体が一体となって対処します。

ダムや発電所などの  
施設の警備



放射性物質などによる  
汚染の拡大を防止



警戒区域を設定

住民が危険な場所に入らない  
よう警戒区域を設定



消防活動

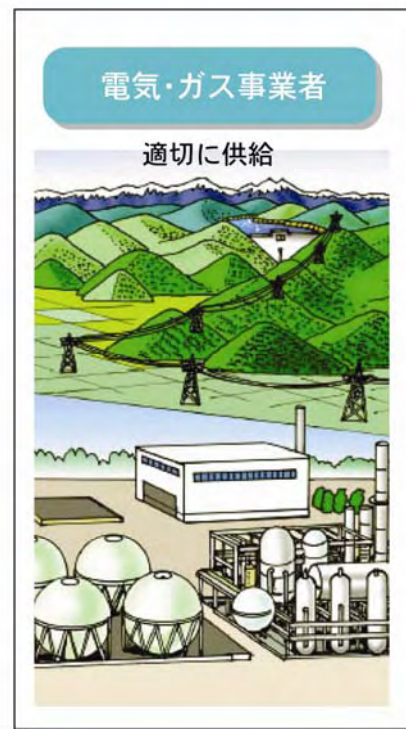
消火や被災者の救助などの消  
防活動





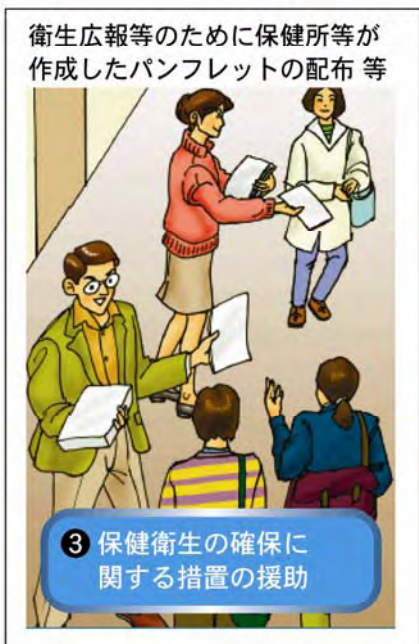
## 指定公共機関の役割

- 指定公共機関とは、国や地方公共団体と協力して、国民の保護のための措置を実施する機関のことをいいます。日本赤十字社や、日本放送協会(NHK)などの公共的機関や、電力会社やガス会社などの公益的事業を営む法人が、政令等で指定されています。
- 指定公共機関には、警報の放送や避難住民の運送など各々の業務に係る役割を果たしていただきます。



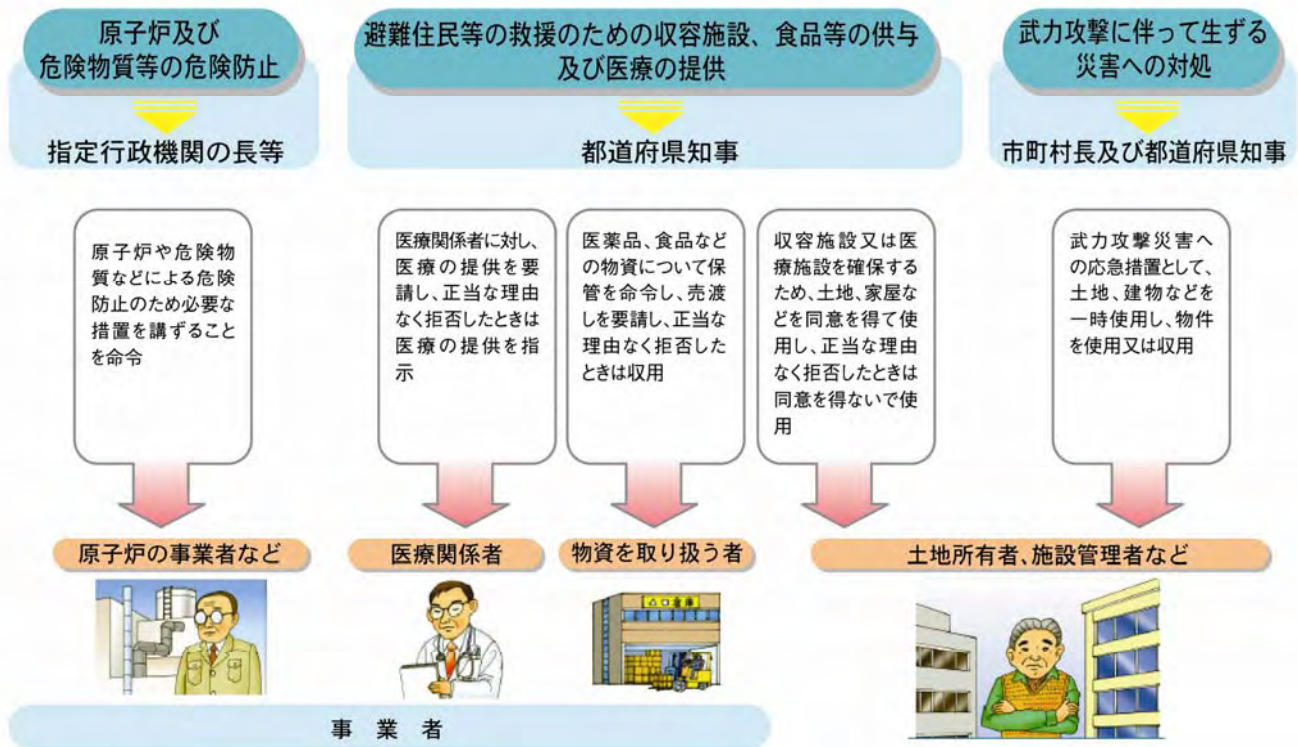
## 国民の協力

- 国民保護法では、「国民は、国民の保護のための措置の実施に関し協力を要請されたときは、必要な協力をするよう努めるものとする」、「国民の協力は国民の自発的な意思にゆだねられるものであって、その要請に当たって強制にわたることがあってはならない」とされています。
- 国や地方公共団体は、協力の要請を行う場合は、安全の確保に十分配慮しなければなりません。さらに、武力攻撃事態等において要請に基づく協力により国民が死亡・負傷等した場合は、その損害を補償します。また、住民の自主的な防災組織やボランティアによる国民の保護のための活動に対し、必要な支援を行います。



## 国民の権利および義務に関する措置

- 国民保護法においては、「国民の保護のための措置を実施するに当たっては、日本国憲法の保障する国民の自由と権利が尊重されなければならない」(第5条第1項)、「国民の自由と権利に制限が加えられるときであっても、その制限は当該国民の保護のための措置を実施するため必要最小限のものに限られ、かつ、公正かつ適正な手続の下に行われるものとし、いやくも国民を差別的に取り扱い、並びに思想および良心の自由並びに表現の自由を侵すものであってはならない。」(第5条第2項)とされており、この原則に基づき、国民の権利および義務に関する措置については、限定的に規定されています。



## 武力攻撃事態の類型ごとの特徴

我が国に対する外部からの武力攻撃については、以下の4つの類型を想定しています。

### 着上陸侵攻



#### ■特徴

- 船舶により上陸する場合は、沿岸部が当初の侵攻目標となりやすい。
- 航空機による場合は、沿岸部に近い空港が攻撃目標となりやすい。
- 国民保護措置を実施すべき地域が広範囲にわたるとともに、期間が比較的長期に及ぶことも想定されます。

### 弾道ミサイル



#### ■特徴

- 発射前に着弾地域を特定することが極めて困難であり、短時間での着弾が予想されます。
- 弾頭の種類（通常弾頭であるのか、核・生物・化学弾頭であるのか）を着弾前に特定するのが困難であり、弾頭の種類に応じて、被害の様相や対応が大きく異なります。

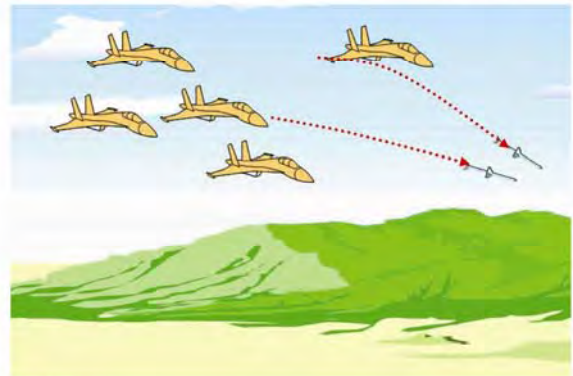
### ゲリラ・特殊部隊



#### ■特徴

- 突発的に被害が発生することも考えられます。
- 被害は比較的狭い範囲に限定されるのが一般的ですが、攻撃目標となる施設（原子力事業所などの生活関連等施設など）の種類によっては、被害が拡大する恐れがあります。
- 核・生物・化学兵器や放射性物質を散布することにより放射能汚染を引き起こすことを意図した爆弾（ダーティボム）が使用されることも想定されます。

### 航空攻撃



#### ■特徴

- 弾道ミサイル攻撃の場合に比べ、その兆候を察知することは比較的容易ですが、予め攻撃目標を特定することが困難です。
- 都市部の主要な施設やライフラインのインフラ施設が目標となることも想定されます。

## 緊急対処事態とは

武力攻撃の手段に準ずる手段を用いて多数の人を殺傷する行為が発生した事態または当該行為が発生する明白な危険が切迫していると認められるに至った事態で、国民の生命、身体及び財産を保護するため、国家として緊急に対処することが必要な事態をいいます。

攻撃の対象施設や攻撃の手段の種類により、以下に示すような事態例が考えられています。

### ～攻撃対象施設等による分類～

危険性を内在する物質を有する施設等に対する攻撃が行われる事態

〈事態例〉

#### 原子力事業所などの破壊

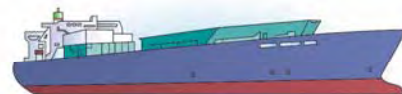
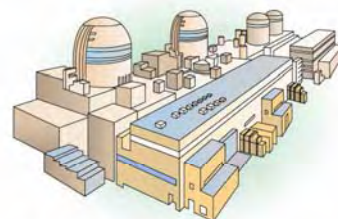
大量の放射性物質などが放出され、周辺住民が被ばくするとともに、汚染された飲食物を摂取した住民が被ばくします。

#### 石油コンビナート、可燃性ガス貯蔵施設などの爆破

爆発・火災の発生により住民に被害が発生するとともに、建物やライフラインなどの被災により、社会経済活動に支障が生じます。

#### 危険物積載船などへの攻撃

危険物の拡散により沿岸住民への被害が発生するとともに、港湾や航路の閉塞、海洋資源の汚染など、社会経済活動に支障が生じます。



多数の人が集合する施設及び大量輸送機関等に対する攻撃が行われる事態

〈事態例〉

#### 大規模集客施設、ターミナル駅などの爆破

爆破による人的被害が発生し、施設が崩壊した場合は被害が多大なものとなります。



## ～攻撃手段による分類～

多数の人を殺傷する特性を有する物質等による攻撃が行われる事態

### 〈事態例〉

放射性物質を散布することにより、放射能汚染を引き起こすことを意図した爆弾  
(ダーティボム)

爆弾の破片や飛び散った物体による被害、熱や炎による被害などが発生し、放射線によって正常な細胞機能が攪乱されると、後年、ガンを発症することもあります。



### 生物剤の大量散布

人に知られることなく散布することが可能です。また、発症するまでの潜伏期間に、感染した人々が移動し、後に生物剤が散布されたと判明した場合には、既に広域的に被害が発生している可能性があります。ヒトを媒体とする天然痘などの生物剤による攻撃が行われた場合には、二次感染により被害が拡大することが考えられます。

### 化学剤の大量散布

地形・気象などの影響を受けて、風下方向に拡散し、空気より重いサリンなどの神経剤は下をほうのように広がります。

破壊の手段として交通機関を用いた攻撃等が行われる事態

### 〈事態例〉

### 航空機などによる自爆テロ

爆発・火災などの発生により住民に被害が発生するとともに、建物やライフラインなどが被災し、社会経済活動に支障が生じます。



memo





武力攻撃やテロなどから身を守るために

**知っておこう、備えておこう。**

内閣官房

**国民保護ポータルサイト**

<http://www.kokuminhogo.go.jp/>